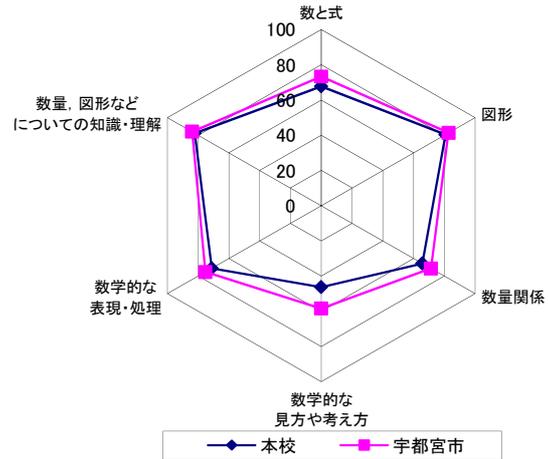


宇都宮市立瑞穂野中学校第2学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の宇都宮市と本校の状況

		本年度	
		本校	宇都宮市
領域別	数と式	67.7	73.3
	図形	80.9	82.8
	数量関係	65.6	71.3
観点別	数学的な見方や考え方	46.3	58.4
	数学的な表現・処理	71.1	75.3
	数量、図形などについての知識・理解	82.2	83.9



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式 (67.7%)	全般的に宇都宮市の平均正答率よりも低い。比の性質や文字式の利用、連立方程式の利用の平均正答率はすべて43.2%であり、宇都宮市の平均正答率よりも10%以上低く、理解が不十分であるとともに、読解力や応用力が不足している。	1年生で学んだ1元1次方程式を含め、文字式の計算の仕方、式の変形の手順を再確認する必要がある。また、文章を読み取り、数や文字を使って式で表す練習に重点を置く必要がある。
図形 (80.9%)	ほとんどの問題に対して本校の平均正答率が80%を超え、他の領域の平均正答率よりも高い。多角形の角や三角形の合同に関する問題は理解できている。三角形の合同の証明において、本校の平均正答率は52.7%と低く、理解が不十分である。	証明の仕方について再度確認する必要がある。証明の仕方についてはある程度パターン化して指導してきているが、まだ問題演習が少ないため、今後多くの問題演習を経験することで、証明の意味や証明の仕方について十分に理解させる必要がある。
数量関係 (65.6%)	全般的に宇都宮市の平均正答率よりも低く、領域の中では最も平均正答率が低い領域である。特に1次関数の利用に関する問題の平均正答率は宇都宮市の平均正答率よりも10%近く低く、中でもグラフをかいて答えを求める問題においては、37.8%と宇都宮市の平均正答率よりも16%も低い。	文章問題やグラフをかいたり、読み取る問題演習に重点を置く必要がある。また、比例と反比例の領域と1次関数の領域を系統的に授業で取り扱い、関数に対する理解や表現・処理をさらに深める必要がある。